

かつらだに まきだ
桂谷古墳群 (牧田古墳群桂谷支群)
現地説明会資料

調査地 大垣市上石津町牧田字二又

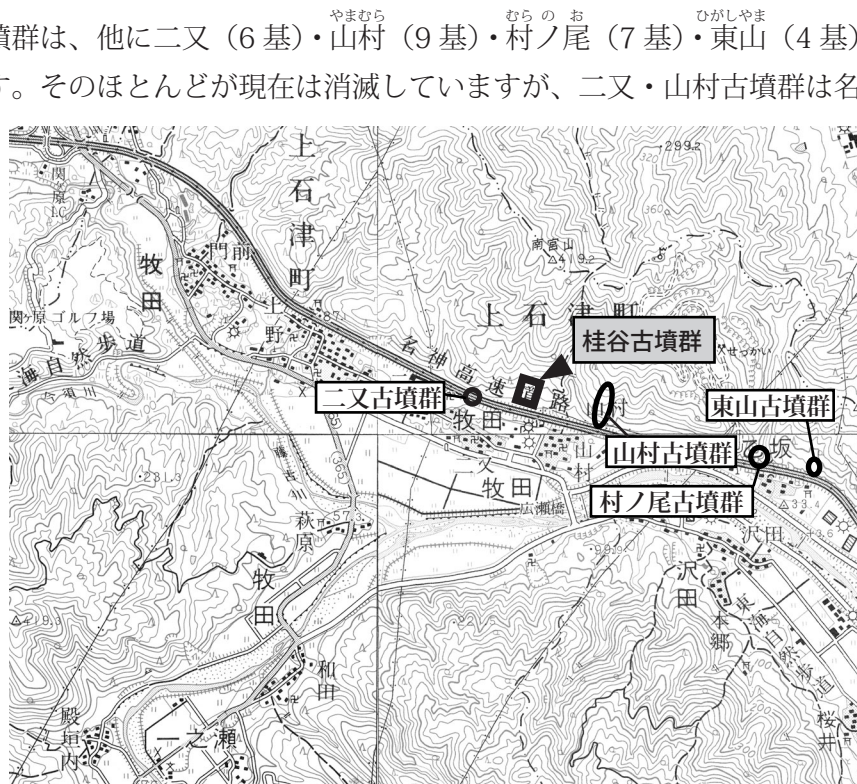
調査期間 8 月 31 日～ 10 月中旬 (予定)

調査面積 28 m²

遺跡の概要

二又集落北側の山腹 (標高 86～110 m) に位置し、直径 17 m の 1 号墳を中心として、10 基の古墳が確認されています。全て円墳と考えられ、3・6・7・10 号墳では横穴式石室の一部を見ることができます。当古墳群は今までに発掘調査は行われておらず、古墳の時期や性格などには不明な点が多いです。

桂谷古墳群が含まれる牧田古墳群は、他に二又 (6 基)・山村 (9 基)・村ノ尾 (7 基)・東山 (4 基) などの古墳群で構成されています。そのほとんどが現在は消滅していますが、二又・山村古墳群は名神高速道路の建設に先立ち、昭和 34 年に発掘調査が行われています。径 15 m・高さ 4 m の二又 1 号墳は、美濃地域における横穴式石室の初現 (6 世紀初頭) のもので、石室内からは馬具や鉄鏃などの金属製品や、須恵器が数多く出土しています。二又 2～6 号墳は 6 世紀後半～7 世紀中頃のもので、山村古墳群は 7 世紀前半～後半にかけて営まれた古墳群とされます。



周辺の主な古墳群分布図 (1:50,000)



1 号墳近景 (北西より)



第 1 トレンチ全景

発掘調査の概要 1号墳の規模を確認するための調査区（トレンチ）を4カ所設定しました。そのうちの一つは東隣の2号墳との先後関係も確認するために設定しました。

第1トレンチでは、1号墳の列石^{れっせき}を確認することができました。列石は上下2段に造られていて、上段部分は残りがよく、高さ0.8mをはかります。また、2号墳の葺石^{ふきいし}と溝を確認することができました。この溝の規模は幅約1m、深さ0.4mです。

第2トレンチは、石室の正面にあたる部分に推定されますが、今回の調査では明確な遺構を確認することはできませんでした。須恵器はそうなどが出土しました。

第3トレンチでも、1号墳の列石を確認することができました。下段は転落のため残りが良くありませんでしたが、上段の高さ0.6mでした。一番下にある基底石^{きていせき}には大型の石材が使用されています。

第4トレンチでは、1号墳の列石を上下二段確認することができました。他のトレンチより比較的残りが良く、上段が0.8m、下段が0.6mをはかります。

まとめ

各トレンチで確認した遺構から、1号墳は直径17m、高さ約6m（南側から計測した数値）の円墳であることが判明しました。古墳の周囲には二段の列石が巡らされていました。横穴式石室の入口は今回の調査では確認できませんでしたが、第2トレンチからはかなりの転石が認められたことから、石室の一部が壊されている可能性があります。検出した遺構や第2トレンチから出土した須恵器などから、1号墳は6世紀後半～7世紀初頭に築造された可能性が高いです。

2号墳の墳丘規模は直径11m、高さ約2.5m（南側から計測した数値）であることが判明しました。墳丘盛土内からは須恵器の小片が出土し、土層の状況から1号墳の後に築かれたことがわかりました。

桂谷1号墳は牧田古墳群の中で、最大の墳丘規模を誇ります。この古墳が築かれた6世紀後半～7世紀初頭頃の、この地域の盟主^{めいしゅ}が埋葬された墓と考えられます。また、他の古墳と比較して高い墳丘を持つことは、現況で墳丘斜面に見られる石から、墳丘全体に石が丁寧に貼りめぐらされていたことによるものと考えられます。造営当初の墳丘の姿を見ることが出来る好例と言えます。

***列石^{れっせき}** 墳丘の外周及び、墳丘の途中にみられる石垣状の積石。古墳の区画、盛土の保護、景観のために造られたものと考えられています。墳丘を全周するものや、石室のある前面など一部だけのもの、1段のもの、2段以上のものと形態は様々です。

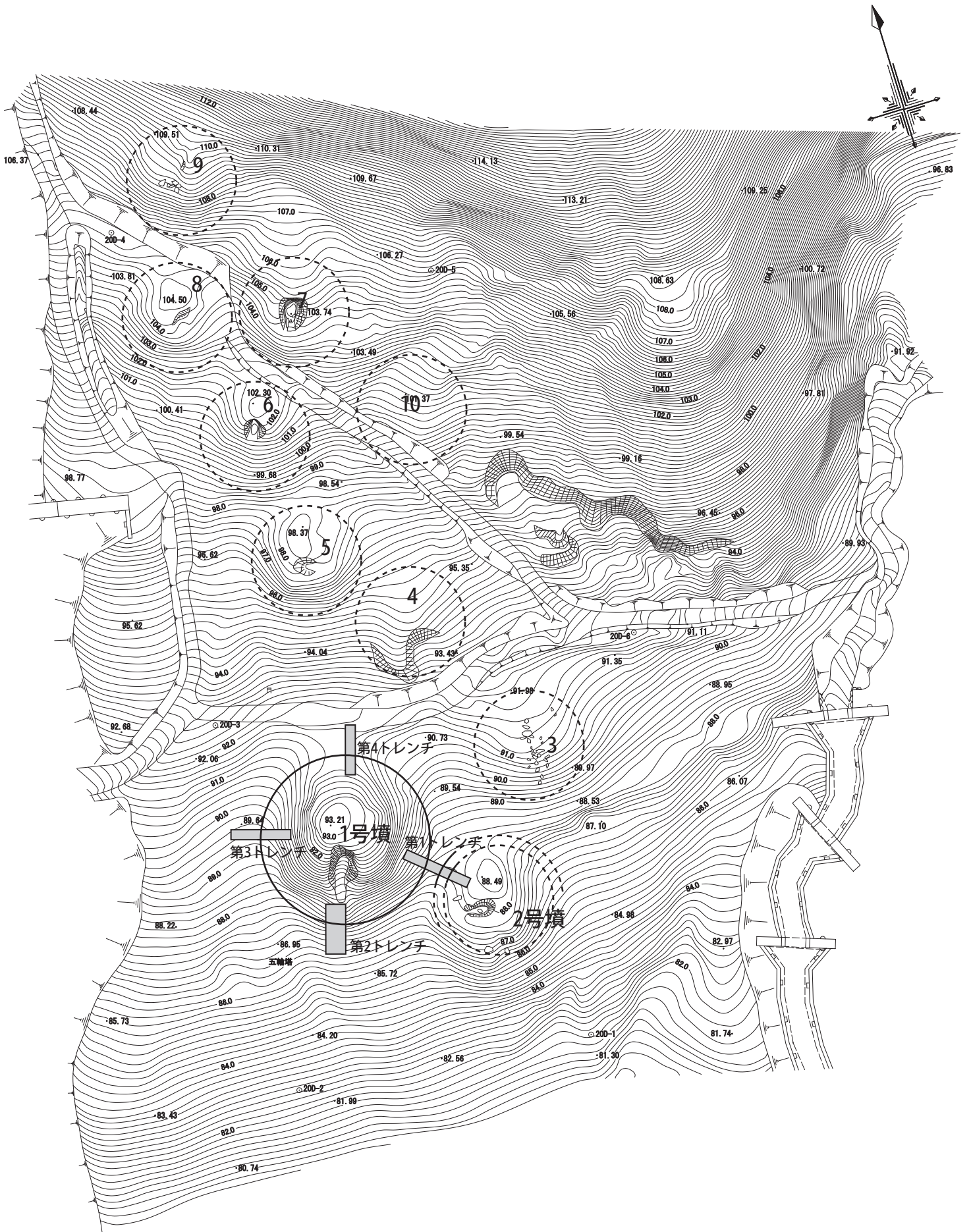
***葺石^{ふきいし}** 墳丘の表面に置かれた石。墳丘盛土を保護するためと、景観のために造られたものと考えられます。



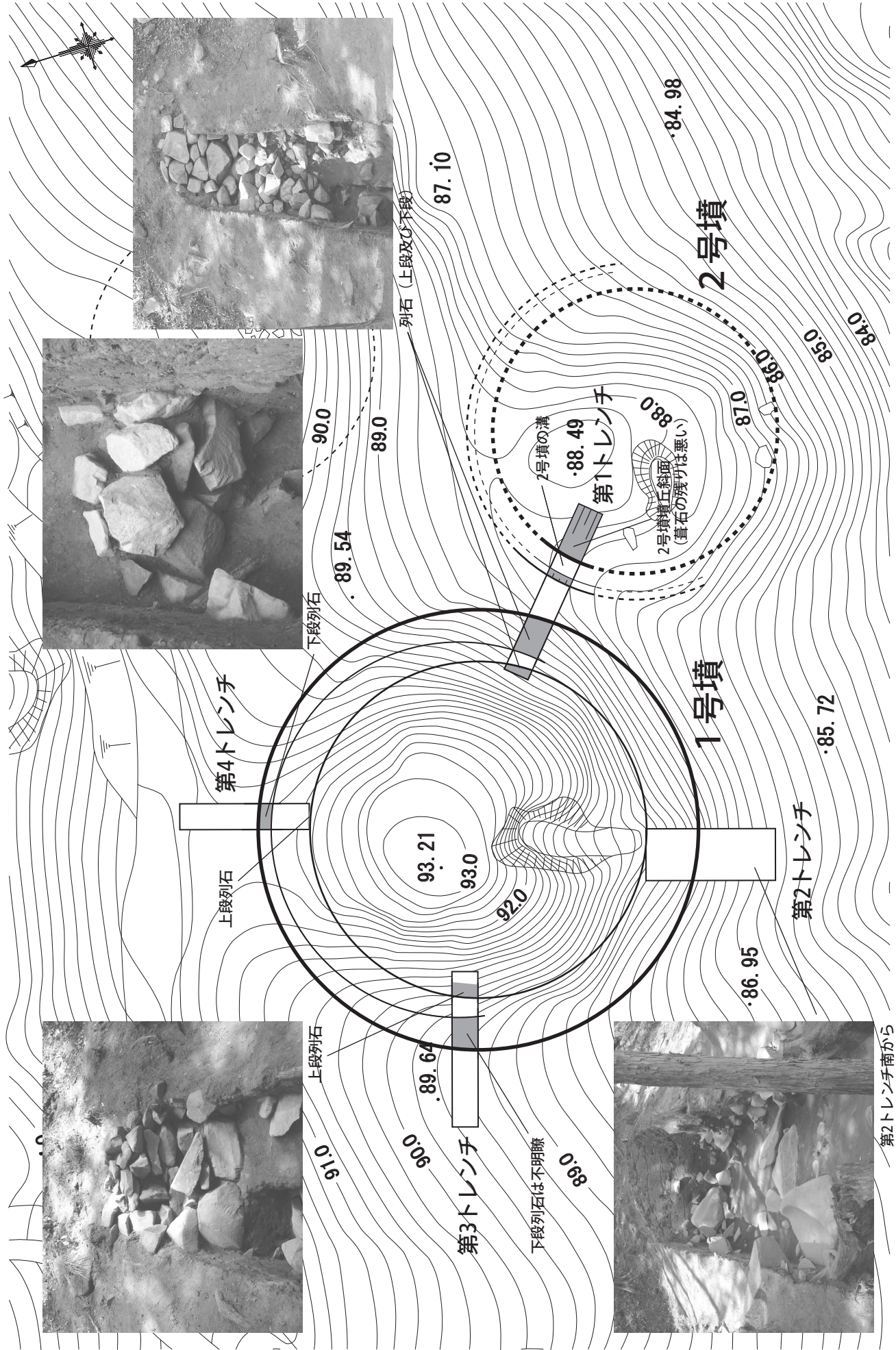
第3トレンチ全景と作業のようす



第4トレンチ上段列石



桂谷古墳群 古墳分布図 (1:500)



調査区及び遺構平面図 (1:200)

第2トレンチ南から